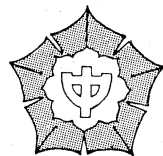


# 実 況



校訓

郷土を愛し  
明るく素直で  
たくましく

文責：校長 川内康範

## 九州合唱コンクール長崎県予選 大島中の美しいハーモニーが響きました。

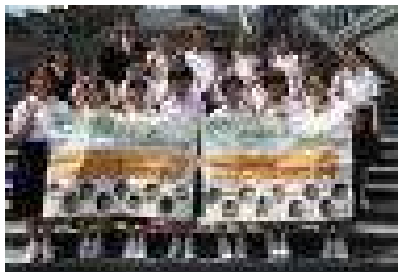


日曜日はアルカス佐世保の大ホールに大島中の美しい歌声が響きました。これまで生徒たちは山口先生と一緒に一生懸命に練習に取り組んできました。思うような合唱にならなくて山口先生が悩んでいた時期があったのも知っています。しかし、次第に合唱はできあがっていきました。そして、迎えた本番。大島中の全校生徒18名による、すばらしい歌声を会場いっぱいに響かせてくれました。生徒たちも大きな仕事をやり終えたような、すがすがしい、満足した表情をしていました。ちよつと自画自賛になりますが、大島中のこの取組は本当にすばらしいと思います。

### 【大島中全校合唱団がすばらしい理由】

- ①音楽のすばらしさを体感していること  
生涯にわたって音楽を愛好し、人生を豊かにする基礎を培っていると思います。
- ②全校生徒で取り組んでいること  
声は一人一人違います。苦手な人もいるかもしれませんが、それでも、みんなで協力して取り組んでいます。
- ③目標に向かって頑張っていること  
今回のコンクールに向けて、課題意識を持ち、限られた時間を大切に使い練習してきました。

歌がうまくなるだけでなく、いろいろな面で成長を感じます。



### 「身近な大人にインタビュー」

#### について考えること

前回の学校だよりで次の文章を紹介しました。

「必ずいつも一人か二人憧れの存在がいれば、子どもたちはその憧れの存在に少しでも近づこうと思つて自発的な学びが生まれると思います。」

私が子どもの頃の「憧れの存在」は？と考えていたら「義信おじさん」のことを思い出しました。私は、近所の農家、義信おじさんの家によく遊びに行っていました。そこには珍しい農機具がたくさんあったことやおじさんが油にまみれながら機械のメンテナンスをしていたことなど、オイルのにおいと一緒に今でもはっきり覚えています。おじさんが畑に出かける時は近所の子どもたちも一緒に歩いていました。映画「3丁目の夕日」の田舎版という感じがすかね。当時の私にとって「憧れの存在」はその義信おじさんだったなあと思います。私がおじさんに憧れたことで、自発的な学びが生まれたかどうかは疑問ですが、少なくとも川内少年は目をキラキラさせて、夢中で農機具を見たり、おじさんの仕事を眺めていたのだらうと思います。選んだ職業こそ違いますが、この体験はその後の私を形成したという気がします。

夏休みの子どもたちは、家族や親戚、地域の大人の方々とふれあう機会が増えると思います。そこには、学校とは違う「斜めの関係」があると思います。そして、「憧れの存在」と出会う機会もあると思います。そんな人にインタビューができればいいですね。この夏休み、子どもたちには、学校とは違う、どのような出会いがあるのでしょうか。また、それをどんな学びにするのでしょうか。